



# アーケードで暮らす

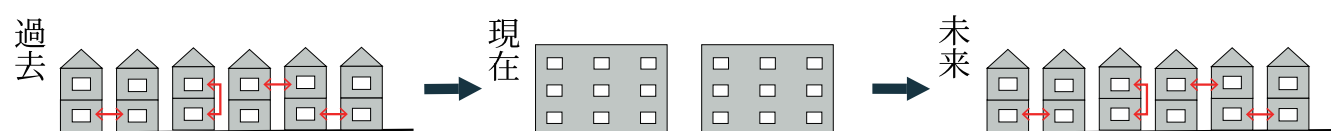
～住空間として二宮市場を再編する～

## 1 都市の現状

昔ながらの商住空間は、戦後、昭和という激動の時代において人と人、人と街との繋がりを築いてきた。そこには経済的な豊かさは無くとも、心の豊かさを満たす空間が確かに存在していた。

今まさに失われつつあるそういったヒューマンスケールな建築空間こそが、何もかもが肥大化していく現代の都市、社会で本当に必要とされる生活空間なのではないか。

現代社会にとって必要不可欠である都市開発と、壊され、忘れ去られていく歴史ある街並み、その二つを組み合わせることで無機質になりつつある現代における新たな「街づくり」のあり方を提案する。



戦後に作られた小さな空間スケールの個人商店の集合は街や地域住民との繋がりを築いてきた

都心における開発事業は建物も取り壊し、一度更地にすることでそこに古くからある伝統や街並みを全て排除する。

むしろ現代においては、街や地域住民との繋がりを築いてきた小さな空間スケールこそが必要とされているのではないかと



開発されていく

現代の街並み

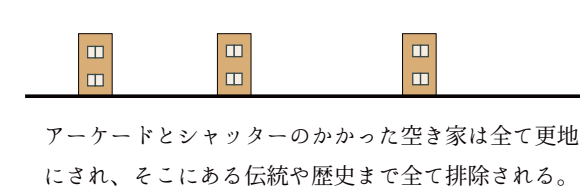
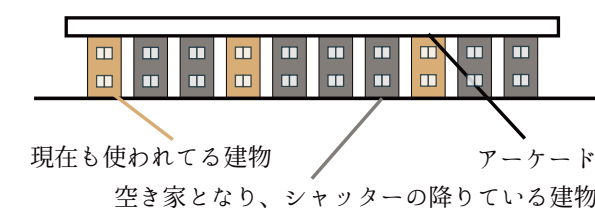
破壊されていく

昔ながらの街並み

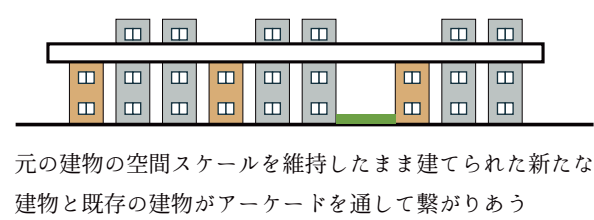
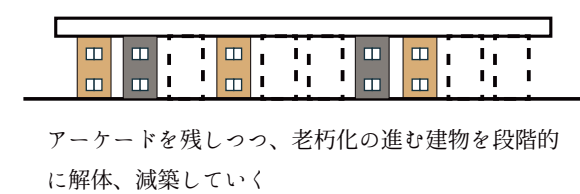


## 2 アーケードを用いた再開発手法の提案

従来の再開発手法



提案する新たな手法



三宮駅北東エリア（通称二宮地区）は、戦後空襲の後に発生した闇市に起源を持ち、かつて三宮の台所として戦後の生活を支えた。

現在は商業の中心地が駅南西部へと移行し、かつての商業空間が居住空間に飲み込まれるような形となっている。

三宮駅周辺部の大規模再整備に後押しされる形で、老朽化が進むこの地区は取り壊しが進み、かつての街並みや歴史が失われつつある。

## 居住エリア

二宮地区

計画敷地

三宮駅

## 商業エリア



### 3 再整備計画の進む三宮駅周辺

三宮では現在周辺地区が一体となった大規模な駅前再整備が行われている。その中でも二宮地区は建物老朽化とにぎわいの低下が問題視されて住宅・業務・商業などの複合エリアとして再整備される方針が打ち出されている。



三宮駅周辺再整備計画の方針図

### 4 計画敷地（二宮地区）の特徴



二宮市場



戦後間も無く建てられ、かつては三宮の台所として人が溢れかえっていた市場。現在は7店舗が営業しているが、老朽化が進み現在は北側半分が取り壊されている。

現在も営業を続ける店舗



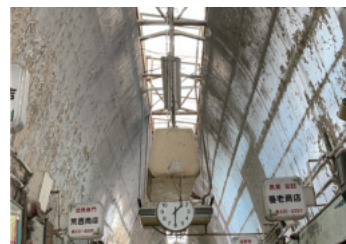
取り壊され空地や駐車場となった場所



駅前開発に飲まれるような形で土地の売却がどんどん進み、貸し駐車場や空地となった場所が多く見られる。

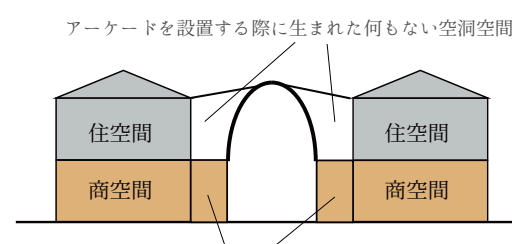
### 5 二宮市場の空間的特徴

①曲線で構成されたアーケード



頂部からは光が差し込み、市場全体を明るく照らしている

②アーケードと建物の特徴的な繋がり



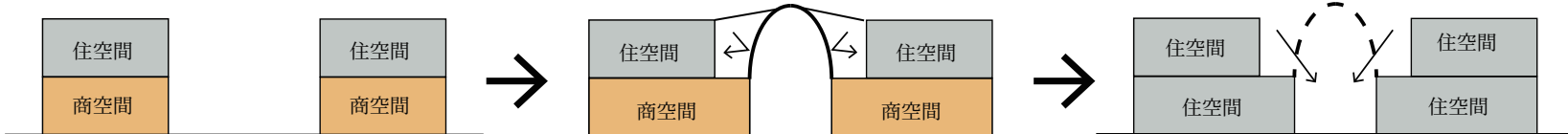
アーケードを設置する際、シャッターを並べる為に増築した部分が特徴的な空間を生み出している

③市場ならではの狭い幅員



一般的なアーケード商店街と比べるととても幅員が狭く、D/Hは0.6となっている。

### 6 アーケード空間の成り立ち

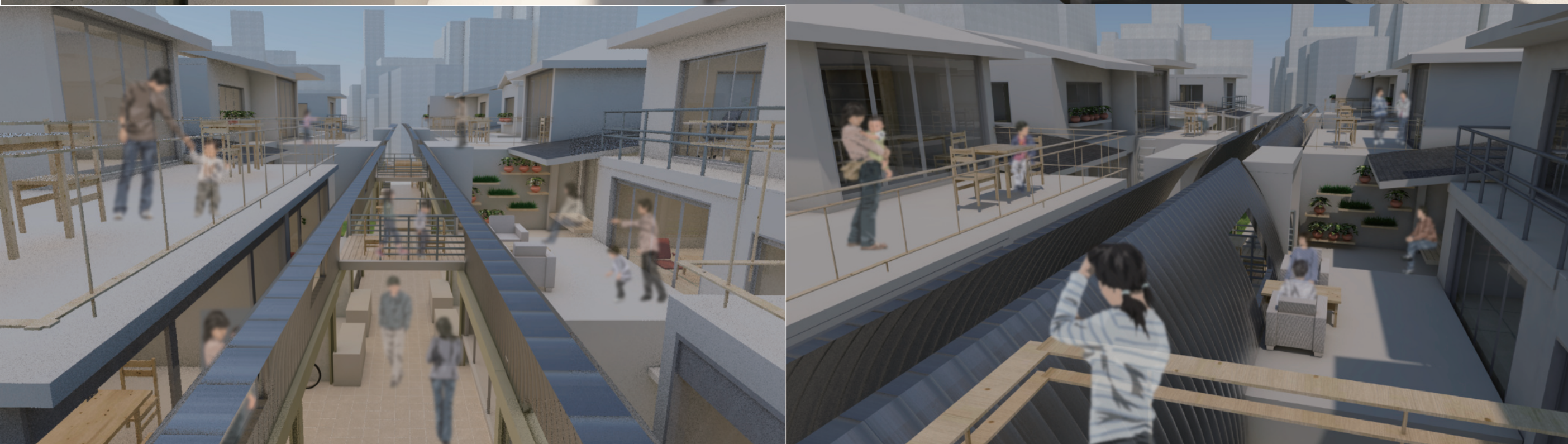


元々は店舗共用住宅が公道を挟んで並びあっていた

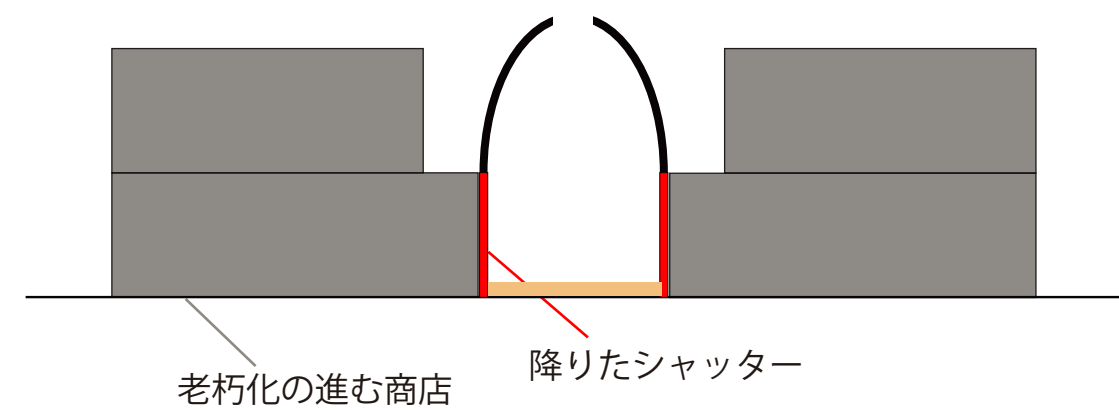
二階の住空間を隠すためにアーケードがかけられた

二階部の活動を一階に溢れ出させるためのフィルターとして活用

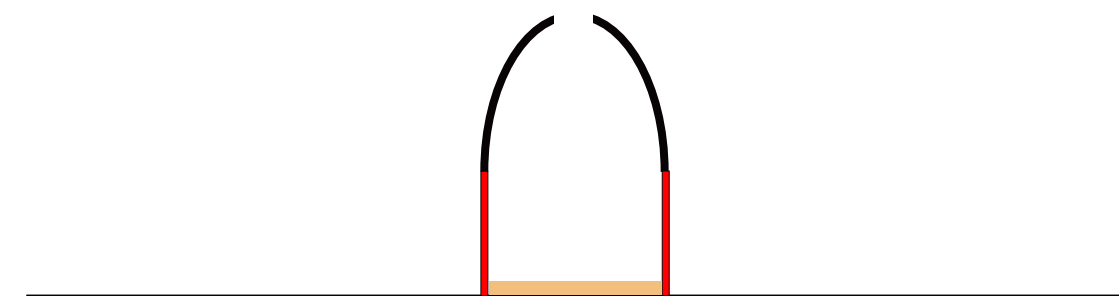




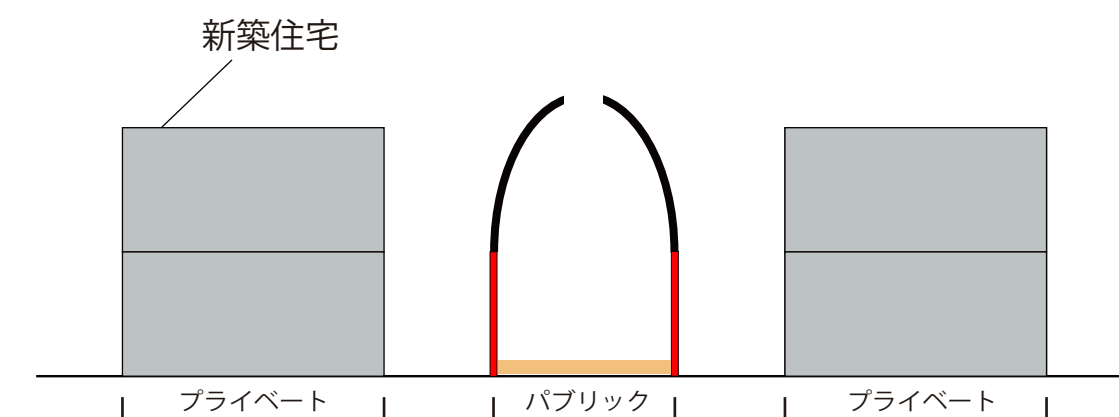
## 8 空間操作



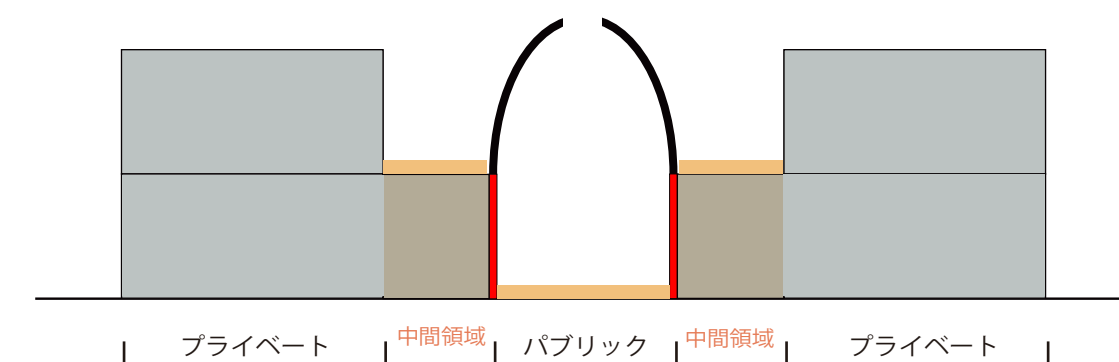
シャッターが降り、  
老朽化の進む商店



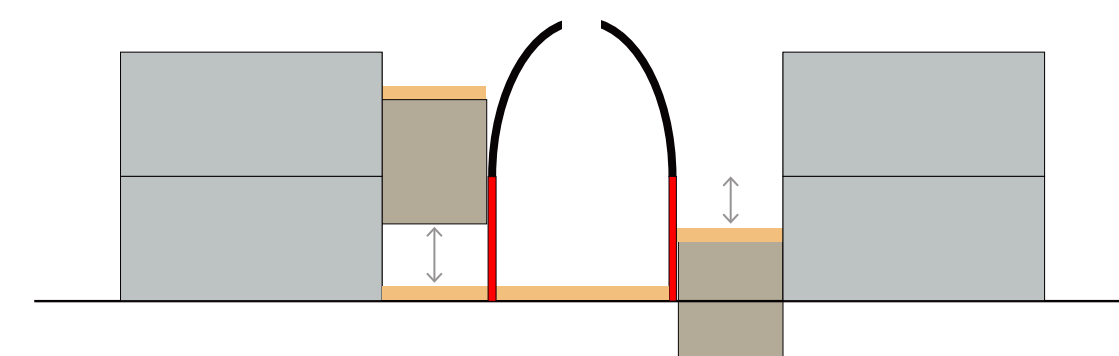
アーケードとシャ  
ッターを残し解体



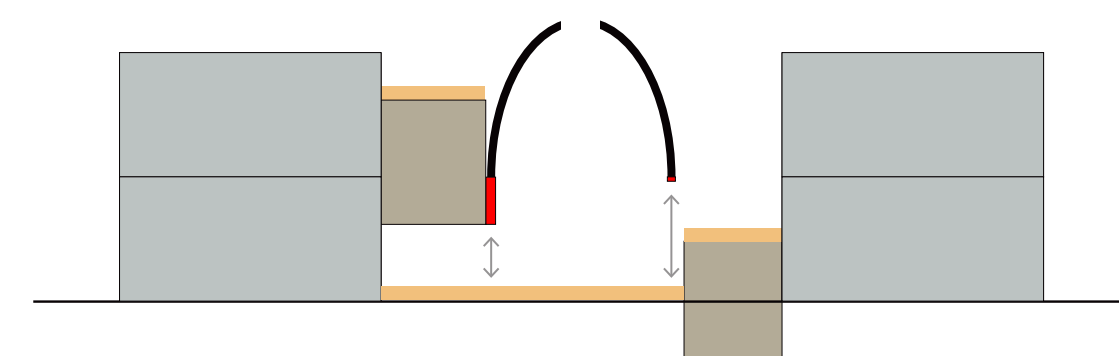
新築の住宅をアー  
ケードとシャッター  
から構造的に分離し  
た場所に配置



シャッターと住宅  
の間、中間領域が  
住戸の一部として  
活用される



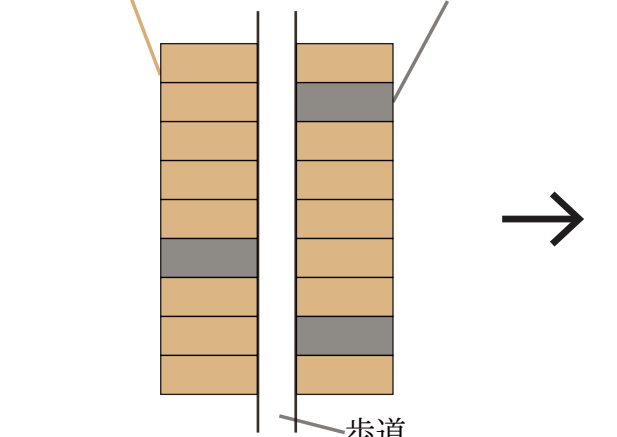
中間領域のフロアレ  
ベルを上下させるこ  
とでプライベートと  
パブリックの関係性  
を多様にデザイン



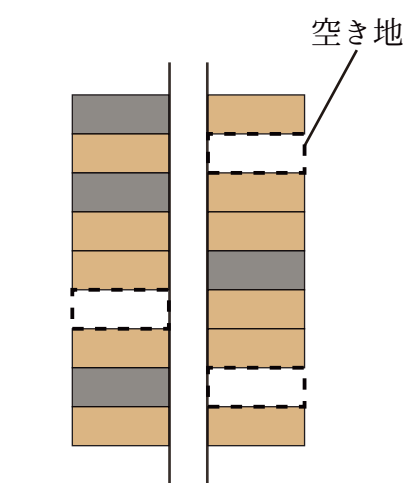
従来のシャッター  
の上げ下げが間仕  
切りの役割を果た  
し、さらに中間領  
域の幅を広げる

## 7 アーケード商店街からアーケード住宅街への新陳代謝

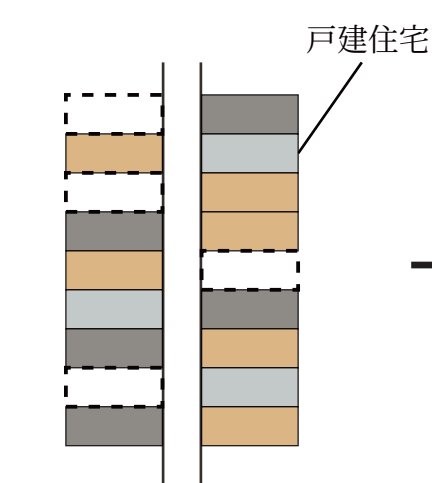
現在も営業を続ける商店  
空き家となり老朽化した建物



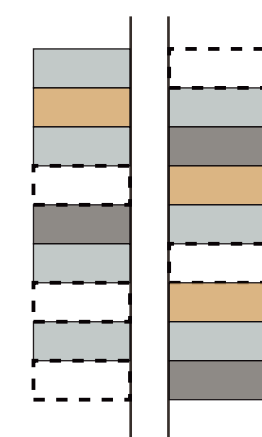
時代の流れと共に商店が潰れ、  
老朽化が進んでゆく



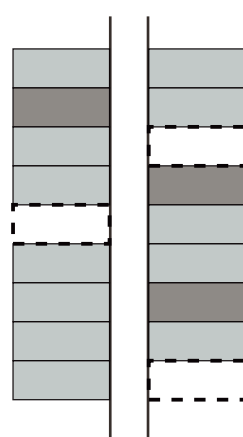
アーケードを残したまま、  
老朽化の進む建物を解体



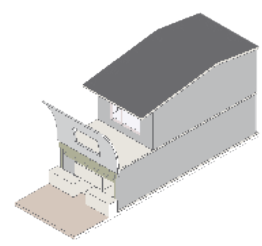
新しく戸建の住宅を挿入



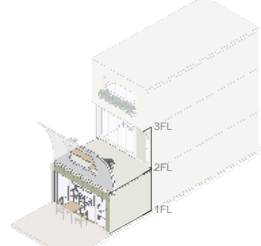
次第に商店街は住宅街へと変貌する



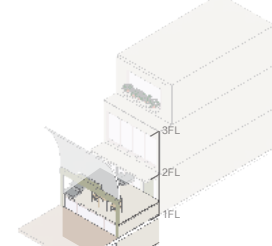
## 9 中間領域のレベル操作



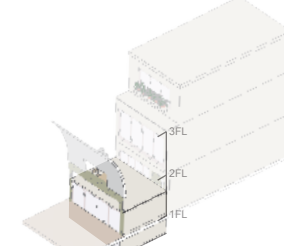
既存の商住一体型住宅



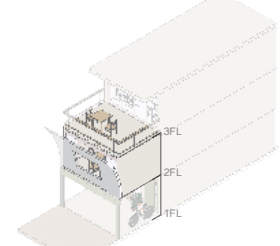
既存型



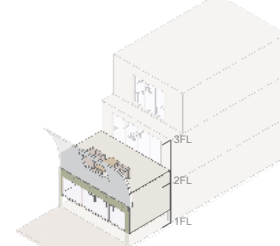
既存型-2/3 フロア



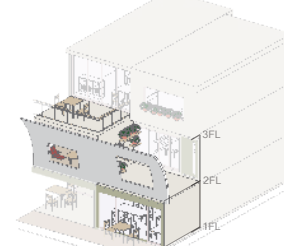
既存型-1/3 フロア



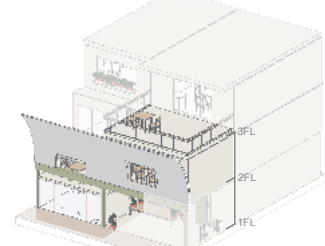
既存型+1フロア



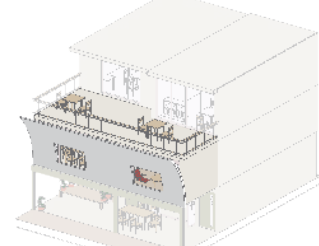
既存型+1/3 フロア



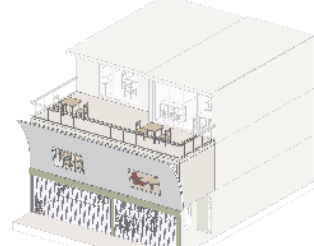
壁面ガーデニング



隙間からの木漏れ日



共有ベランダ



共有ベランダ (間仕切り空間)



商店街から住宅街へと変わりゆく中で、商店営業を続ける商住一体型住宅と、新築の住宅がアーケードを通して混ざり合う。



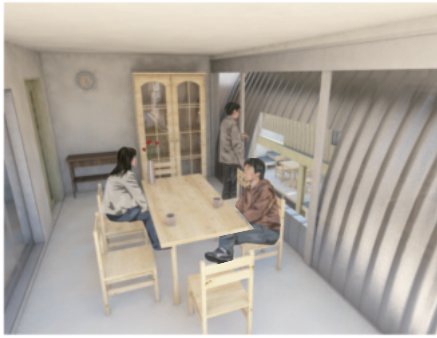
既存の商店と空間的に似た形。住戸の室内空間とアーケード下歩道空間がダイレクトに繋がることで、教室やイベント等を開催するなど積極的に地域と関わりを作りやすい空間となっている。



2/3フロア分レベルを上げることで、中間領域の上部が2階バルコニーへの動線空間となり、1階アーケード下空間から2階屋外空間までを合わせて立体的に活用することができる。



1/3フロア分レベルを下げることで、歩道を歩く人とのアイレベルを変化させ、天井採光のような特徴を持った落ち着いた雰囲気下の地下空間を生み出す。



1フロア分レベルを上げることで、2階のアーケードの目の前に室内空間が配置され、部屋の壁面がアーケードとなり、アーケードに開けられた開口が窓の役割を果たす。



1/3フロア分レベルを上げることで、アーケード下の歩道を歩く人とのアイレベルを変化させ、視覚的には繋がりがつつも空間同士の適度な距離を生み出す。



隣の既存型+1フロア住宅の壁面を自分のバルコニーの一部とすることで、アーケードと壁面に囲まれた立体的な空間が生まれる。



1Fレベルと2Fレベル間に出来た1/3フロア分の隙間から木漏れ日が差し込み、下のバルコニー空間を暖かく包み込む。



同じレベルに中間領域を設定した隣の住民とバルコニーを一体的に活用することができる。

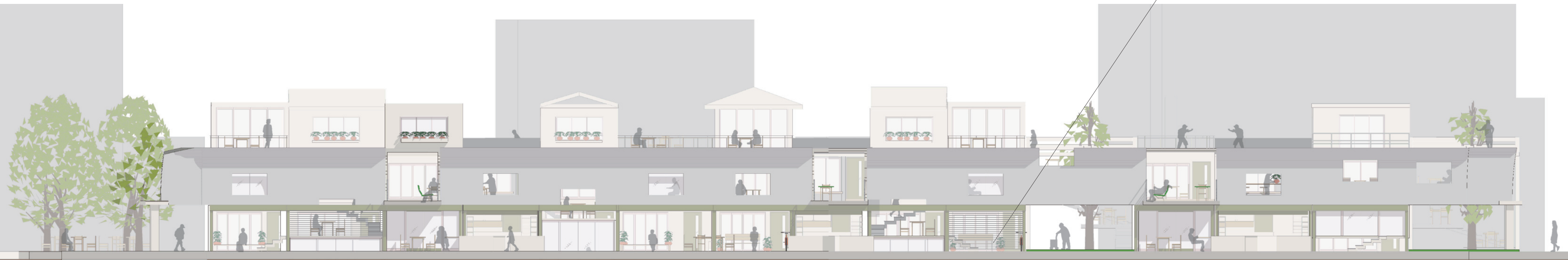


既存のシャッターの間仕切りとして活用することで、半屋外のような空間を作ることができる。シャッターのスラットを自由に入れ替えることで、透明な間仕切りとして使うことも可能。



アーケード下空間と住棟の間の中間領域は、室内空間は住棟と繋がり生活空間の一部として1Fアーケード内部に接し、屋上空間はアーケードの裏側でバルコニー空間として解放される。

隣接する住宅とのフロアレベル差に応じて、バルコニーを共有したり、動線として繋がったり、視線が抜けたりと、様々な関係性が生まれる。

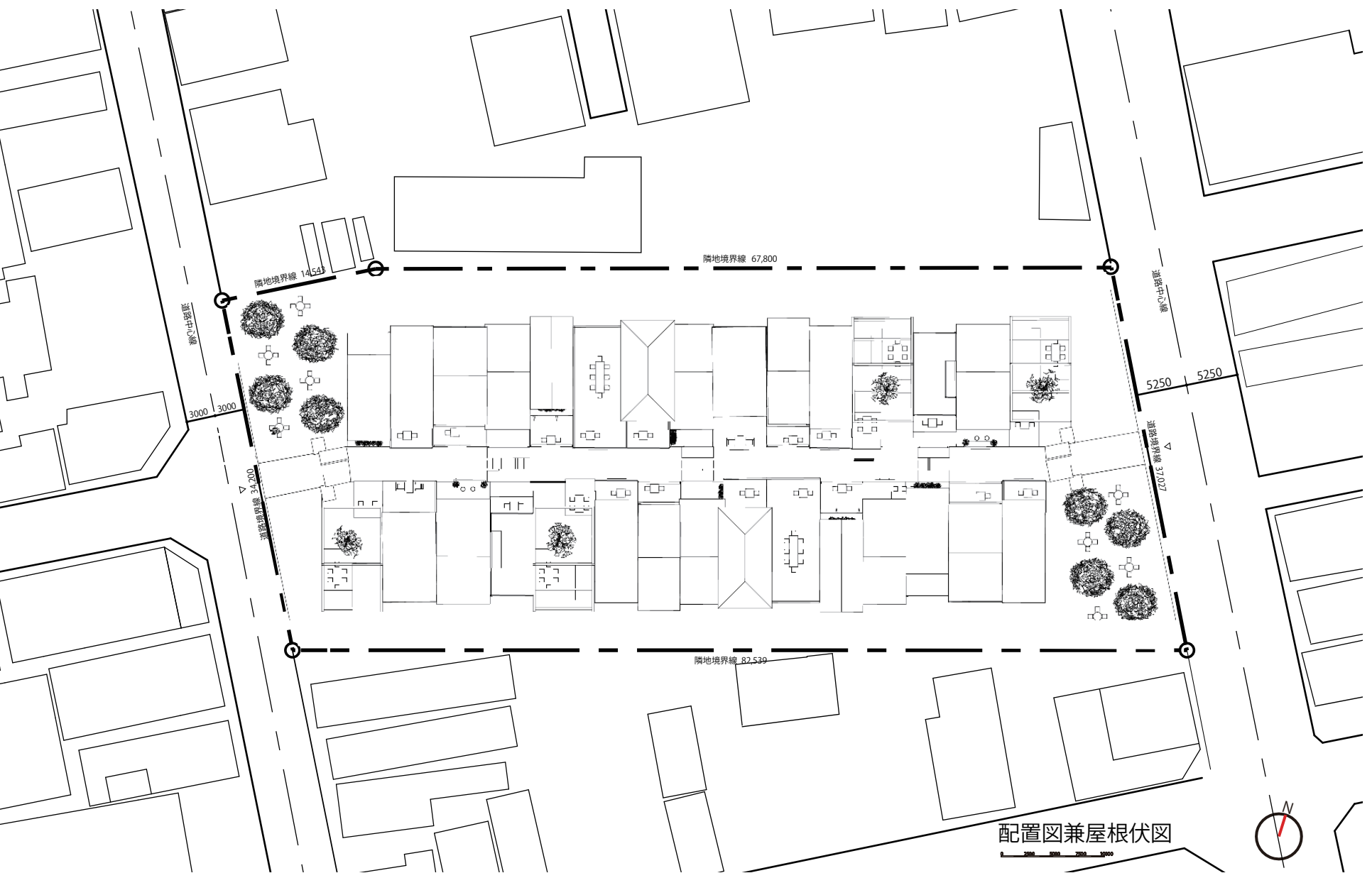


アーケードの裏側にはフロアレベルの上った室内空間や、屋上のバルコニー空間が配置され、アーケードの裏側にも住民の活動が展開される。

アーケード内部が街に開かれたパブリック空間、アーケードの裏側が住民同士が交流できるセミパブリック空間となり、アーケードが二つのエリアを分けるフィルターとしての役割を果たす。

これに対し、アーケードに開口部を開けることで、アーケードの裏側で展開される屋内や屋外、異なるフロアレベルでの様々な住民の暮らしが、アーケードというフィルターを通して1Fのパブリック空間に映し出される。

12 配置図



13 断面図 (短手方向)



C-C' 断面図 0 1 3 5 10(m)

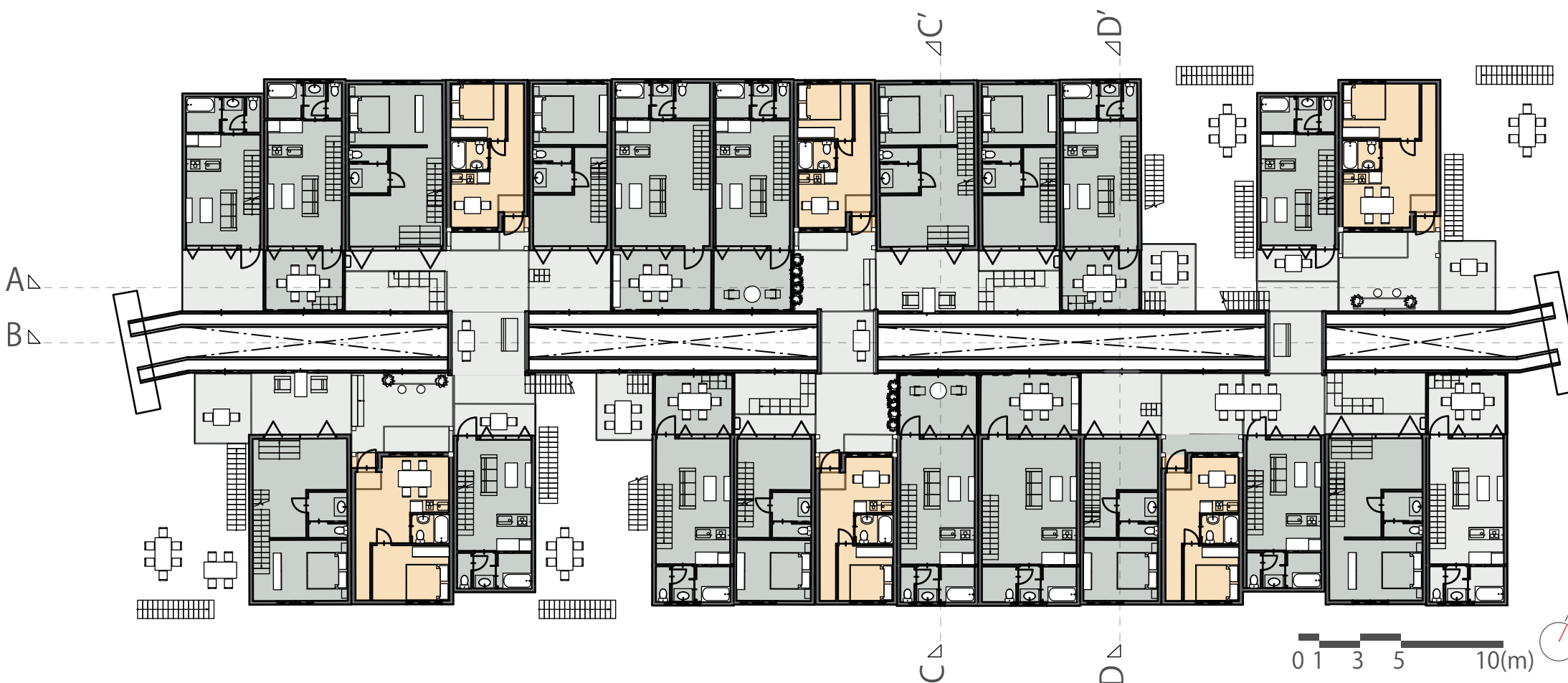


D-D' 断面図 0 1 3 5 10(m)

14 平面図



三階平面図



二階平面図



一階平面図

…新築住宅 …既存の商店